

今後の当山行事予定

納め不動(十二月二十八日)

●御本尊開扉大護摩供

午前五時・十時・十二時三十分・午後二時半・三時

修正会(二月一日～七日)

●世界和平
佛法興隆 歳旦開扉大護摩供

元日午前零時

●開運招福
各願成就 御本尊開扉大護摩供

元日午前六時

●信徒各位
善願成就 新年護摩(お預かり祈祷)

元日より七日まで

お正月特別授与品

●開運招福熊

手授与

元日より二月三日まで

●開運厄除 不動明王矢守

授与

●台所守護 三宝大荒神御札

授与

お接待(三ヶ日)

●招 福 新年よろこぶ茶 境内特設テントにて

●令和二年 開運守護赤札守 進呈 各日 先着一千名様
庚子 歳

交通安全祈願

午前9時より午後4時まで

毎時0分／30分の30分毎

(但し、毎月28日は御縁日にて通行禁止となりますので、
お車の安全祈願はお勧めできません)

仏具磨きの日のお知らせ

11月25日

12月25日

1月25日

この日は仏具を磨く日ですから、昼の御護摩はございません。(朝6時のお勤めはいたしております)

今年もあつという間に年

の瀬が近づいてきました。

御信徒の皆様には、本年中也何かとご信授、ご信助を賜り、誠に有難うございました。来年も変わりになく、よろしくお願いいたします。

開創千二百年記念事業の工事も着々と進行し、来年半ばにはすべての工事が完了する予定です。完成まで、皆様には何かとご不便をおかけするとは思いますが、御寛容くださいませ。

皆様には、穏やかな新年を迎えられ、ご多幸、ご発展の年となりますよう、お祈り申し上げます。

編集人



令和元年11月18日発行

通巻 163号

発行所
瀧谷不動明王寺
〒584-0058
富田林市彼方1762
電話 0721-34-0028
振替 00930-5-17704
●発行人 荒谷純光
●編集人 荒谷純栄

●法話「報恩謝徳の生活」その② 山口真司 師 2～3頁
●お正月のご案内／修正会 新年護摩のご案内 4頁
●お正月お護摩祈禱の時刻／開運守護赤札守 進呈／
お正月特別授与品／新年よろこぶ茶 お接待 5頁
●お正月の交通安全祈願のご案内 6頁
●厄除けについて／聖酒 不動力ご奉納のご案内 7頁
●令和三年 開創千二百年 記念事業経過報告 並ご奉讀お願い 8頁
●記念事業寄進者御待遇表／記念事業寄進者御芳名 9頁
●今後の当山行事予定 10頁

心身を浄める除夜の鐘

年もおしつまつてきました。この頃になると、何とか一年を無事に過ごすことができて本当にありがたいことだと、いつも思います。

「過福は糾える縄の如し」は『史記』にある言葉で、不幸な出来事があれば、その後には必ず良い出来事がある、縄が交互に交じりあっているように訪れることを言い表しています。また「この世の中はプラスがあれば、その分マイナスもある」と言った人もいました。概してこの世ではエネルギー保存の法則と言いますか、合わせればプラスマイ

ナスゼロ。今年は何とも不幸続きだった人も、来年は替わりに良い事があるに違いないと、前向きな気持ちを持たれることが大切なことではないでしょうか。

大晦日に除夜の鐘が全国津々浦々、多くの寺院で撞かれます。除夜の鐘を百八回撞くのは人間の煩惱を仮に百八と数え、旧年中に溜め込んだその煩惱を撞き清めるためであるとされています。一年三百六十五日を過ごす間に、私たちは様々な人と接し多くの雑事に振り回され、あれこれと思いながら毎日を過ごしています。「どうしてあの人は自分勝手で、人の言うことを聞かないのだろう」「どうして私ば

かり嫌な目に会うのだろう」などなど。私たちは知らず知らずに自分を見比べ、妬んだり憎んだりしがちです。

お経の一節に「我れ昔より作る所の諸々の悪業は、皆な無始の貪、瞋、痴に由る」とあります。これは「我々が昔から作る悪い行ないはすべて、心の中に始からある貪りと瞋りと痴かさに由来するのだ」という意味になります。この「貪(貪欲)」と「瞋(怒り)」と「痴(愚かさ)」を心の三毒と申します。これらの煩惱に由来する悪い行いが、自覚のないままに相手を傷つけ、自ら徳を下げてしまいます。知らず知らずの行いは中々反省できないも

のです。だからこそ私たちは、新年を迎えるに際して、心も身もすっかりと清めたいものです。

瀧谷山の除夜の鐘には、毎年大勢の方が鐘をつきに來られます。どうぞ皆様方も当山のお不動さまに初詣される時には、除夜の鐘をついて心身を清め、新しい年を迎えていただきたいと存じます。



法話「報恩謝徳の生活」

平成二十八年四月一八日
その②

埼玉県加須市

總願寺

山口 真司 師

『アジャセ王の話』というのがあります。インドのマガタ国というところに、ビンビサーラ王とイダイケ夫人という方がおられました。なかなか子供に恵まれず、ある時にバラモンを呼びます。バラモンとはこの時代では古い師のようなものです。

このバラモンが言うには、「この国の先の山奥に仙人がいる。その仙人は三年後に亡くなり、生まれ変わってあなたがた二人のもとに王子として生まれてくる」と告げます。ビンビサーラ王はとても喜んだのですが、三年も待つていられない。王は「三年後に死ぬんだつたら今殺してもいいのでは」と、とんでもないことを考え仙人を殺してしまいます。仙人は「こんなことをする王を私は絶対に許さな

い」と言つて亡くなります。やがて王と夫人の間に男の子が生まれました。王はバラモンの予言が本当になったので、とても喜ぶと同時に、仙人が恨みながら死んでいったことへの罪悪感に苦しみます。王は赤ちゃんには「アジャセ」という名前をつけて大事に育てました。

大きく成長したアジャセは、あるときダイバダッタという悪い者に出生の秘密を聞かされます。そして「仙人は恨んで死んでいったので、実は両親はアジャセの事が嫌いなんだ」と嘘の話も聞かれます。その話を真に受けたアジャセは、父のビンビサーラ王を牢獄に入れてしまいます。

時が流れて成人したアジャセ王に、やがて子供が授かりました。ある時に子供がケガをしてその部分が化膿してしまいました。アジャセ王は、その膿んだ部分を口で吸って血膿をベツと吐きだしました。それを見た子供はびっくりして泣き出してしまいました。その様子を見ていた母親のイダイケ夫人は「あなたは息子の血膿を吐きだし

たでしょう。あなたのお父さんは、昔あなたがケガをしたときに、口で吸った膿をあなたがみたらびつくりするからと呑み込んでいたのよ」と話されました。それを聞いたアジャセ王は、父親に対する仕打ちをひどく後悔して牢獄に向かいました。

しかし牢獄にいたビンビサーラ王は、アジャセ王の足音を聞くと自らの命を絶つてしまいます。どうしてかという、王は息子が自分を殺しに来たと思ったんです。そしてアジャセ王に親殺しの落胤をおさせないようにするために、自らの命を絶つたんです。それほどビンビサーラ王はアジャセ王のことを大事に思っていたんです。



このことがとてもショックになってアジャセ王は身も心もボロボロになってしまい、体中におできができてしまいます。誰も自分には近寄つて来ない中、唯一看病をしてくれたのが母親でした。母親の献身的な看病を通して、自分は子供の時からずっと母親の世話になって育ててもらっていたんだということに、アジャセ王はまた気づきました。両親の深い愛情に感謝し、今までの自分の行いを深く悔やみました。

そんな時にギバというお医者さんが王のもとに来て「お釈迦さまに会いに行きましょう。お釈迦様なら心や体の痛みをとつてくれますよ」と言いました。アジャセ王がお釈迦さまに会いに行くと「あなたの苦しみがなくなるまで、私はずっとあなたのそばにいますよ。あなたがしてきたことは確かに悪いことだけれど、反省をしたということはとても大切なことです。悪いことをしたということは消えないかもしれない。しかし善行を積み重ねることによって必ずその罪は消えますよ。あなたの

罪が消えて地獄に落ちなくてすむようになるまで、私がずっとそばにいますよ」と仰られました。こうしてアジャセ王は、お釈迦様の信者になって、仏教教団を支え守つていく立派な王さまになっていきます。

人間というのは必ず悪いことをします。だけどそれを反省する、懺悔をするということが大切です。そして懺悔の後に善い行いをしていくことがとても大切になってきます。話は「父母の恩」に戻りますが、自分が生まれた時に最初に「ご恩をこうむる人、施してくれる人、それが両親なんです。ね。ですので『大乘本生心地観経』というお経では、人が受ける四つの恩の先ず一番目に「父母の恩」を説いているんです。

二番目は「衆生の恩」です。これは簡単に言うと、生きとし生けるもの全てからいただく恩ということになります。例えば食べたものを考えてみますと、全て生命があったものになります。今日も先ほど私はお昼ごはんを食べましたが、

全部命のあつたものでした。肉や魚はみなさんもすぐにわかると思いますが、もう少し考えてみますと例えば野菜やお米……。これも植物です。から生命がありました。他に

はどうどんを作るときうどん粉、これも生命のあつたものから作られたんです。私たちは食べないと生きていけません。そして食べるものすべてが生命のあつたものなんです。そう考えてみると私たちの生命は、多くの、そしていろんな生命の犠牲の上に成り立っているんだと言えます。人と人とのご恩ばかりではなくて、食べ物からも恩恵をいただいているわけです。

また自然界をみますと、地球には当たり前のように空気があります。空気の構成要素の中に酸素があり、酸素があるから水があります。私たちは酸素を吸つて二酸化炭素を吐きだしています。木々の緑は、私たちが吐きだした二酸化炭素を吸つて、それを酸素に変えて供給してくれています。光合成といつて学校で習ったことを覚えてる方もおられると思います

が、そう考えますとこの木々の緑というのは、とても大切なものだとわかります。

あるお寺に大きな木があつたそうです。あるとき隣人に「お寺の木からの落ち葉が私の家の庭に落ちてきて、もう大変なんです。何とかありませんか？」と言われたそうです。しかし御住職は「うちの木がご迷惑をおかけして申し訳ありませんね。でもこれだけ大きくなつてくれたので切るには忍びないので、そちらにご迷惑がからない程度に枝下ろしをさせてもらいます」と言われて、枝葉が大きく広がると、少しずつ枝下ろしをされてたそうです。

やがてその木もとうとう寿命が来ました。庭師さんに相談しますと、中が空洞になってしまっている。このままだと台風なんかで倒れてお堂を傷ついたり、周りの人たちが危ない目に遭うかもしれないから切った方がいいですよと言われました。御住職は泣く泣くその木を切ったそうです。そこに文句ばかり言つていた隣人の方が来られ

て「何であの木を切つたんですか？あの木がなかったらうちの家は夏が暑くてたまらないんです」と言ってきたそうです。御住職は「木はそうやって私たちを守ってくれてたんです。残念ながらこの木は寿命を迎えて切つてしまいましたが、切り株から新しい芽が出てきてくれました。またいつの日か大きくなつてあなたの家を涼しく、守ってくれるようになるでしょう」と言われたそうです。それぐらい木というのは大切な存在なんです。食物となる植物も木々も私たちを支えてくれているわけです。そういう全ての生命、動物・植物からいただくご恩というのが、この「衆生の恩」になります。（次号に続く）

●一部、読みやすいよう語尾等の表現を改めています。



16時	15時	14時	13時30分	13時	11時30分	10時30分	10時	9時30分	6時	1時30分	0時	
○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	元日
○	○	○		○	○	○		○	○	2・3日		
	○		○		○		○		○	上記以外の日 (25日は除く)		

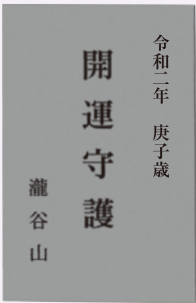
お正月お護摩祈祷の時刻

令和二年 庚子歳
開運守護赤札守 進呈

お正月三ヶ日にご参拝の皆様、令和二年の開運をお不動様に祈念した赤札守を進呈いたします。ただし各日とも先着一千名様に限らせていただきます。

元日は午前零時より、二日・三日は午前七時より進呈いたします。なるべく多くの方に利益を授かつていただきますよう、ご参拝の方お一人につき一体のお守進呈とさせていただきます。

● 開運守護赤札守



お正月特別授与品

● 開運招福 熊手



● 開運厄除 矢守



● 台所守護 三宝大荒神御札



熊手、矢守は元日から節分までの間だけ授与しております。

◆ お正月のご案内 ◆



修正会ご祈祷 並びに
新年護摩(お預かり祈祷)のご案内

瀧谷山では、元日から二月七日までの一週間、修正会をお勤めいたします。修正会では、年頭にあたり世界平和、五穀豊穰、萬民富樂等を祈念し、併せてご参詣の皆様のお願いを祈願いたします。

修正会期間中は、お護摩を普段より多くお勤めしております。時刻は左頁表によりご確認ください。また、お車でご参りの方は、六頁に記載の移動見取り図をご確認ください。

皆様には、ぜひこの機会にご家族でご参拝いただき、新年を新たな心持ちで迎えられますよう、ご祈祷をお受けいただくことをおすすめいたします。

また、この山報のご案内を同封しております新年護摩とは、元日から一月七日までの修正会期間中、当山でお札をお預かりして祈願するものです。無病息災 家内安全 開運招福等、来たる年の吉祥を願ってお申し込みいただき、お不動様のご加護をいただかれますよう、ご案内申し上げます。

お申し込みの場合には、同封の用紙にて十二月二十日までにお申し込みください。なお、新年護摩のお札は修正会終了後の八日以降、事務所にてお渡しいたします。また、郵送をご希望の方には十日以降にお送りいたします。

新年よろこぶ茶 お接待



新年よろこぶ茶 お接待

境内にて、元日は午前零時から、二・三日は午前八時半から、新年よろこぶ茶をお接待申し上げます。

なお、お年賀会場でのお接待は客殿工事中のため、中止といたします。ご了承くださいませ。

厄除けについて

厄年の起こりには諸説あり、一説には神祭りの「役」を勤めるために身を清める年齢であったとも言われています。

一方で現代では、社会的な地位を持ち始める年齢に当たり、仕事で責任が重くなるなど、無理や負担がかかって病気になるややすい年齢、また結婚・出産・育児など生活の環境が大きく変化する年齢とも言われています。

このように厄年は、肉体的・精神的・社会的な節目にあたる年齢です。厄年に当たられる方には、厄年を無事に過ごし、災難を避けられるよう、厄除けのご祈禱を受けられることをお勧めいたします。

一般に厄年のご祈禱は節分までに言われていますが、当山では年中お護摩祈禱をお勤めしておりますので、折り悪く節分までに受けられなかった方も、時節にこだわらずお越しくださいますよう、ご案内申し上げます。



お護摩祈禱

来年厄年に当たられるのは

数え年	男 性	数え年	女 性
25才	平成 8 年生まれ	19才	平成14年生まれ
41才	昭和55年生まれ	32才	昭和64年生まれ 平成元年生まれ
42才	昭和54年生まれ	33才	昭和63年生まれ
43才	昭和53年生まれ	34才	昭和62年生まれ
61才	昭和35年生まれ	37才	昭和59年生まれ

聖酒 不動力

ご奉納のご案内



お供えされたご聖酒

修正会期間中、本堂外陣正面にて、皆様に「ご奉納いただいた聖酒をお供えいたします。」

この聖酒は、当山前住職の命名による「不動力」というお酒で、米と米麴のみで醸造された純米吟醸酒です。ご奉納いただいた不動力は、二本一本お名前を浄書してお不動様にお供えいたします。

ご奉納いただけます方は、直接寺務所までお申し込みください。もしくは新年護摩申込用紙を使用してお申し込みいただくことも可能です。その際には、用紙裏面の通信欄に奉納者名をご記入の上お送りいただき、同封の振込用紙にてお振込ください。

奉納料は一本につき三千円です。お願いしております。

お供えいただいた方には、お下がりとして不動力一合瓶をお渡しします。郵送でお申し込みの方には、後日寺務所で受領書と引き換えにお渡しいたします。



お供えいただく不動力

お正月の交通安全祈願のご案内

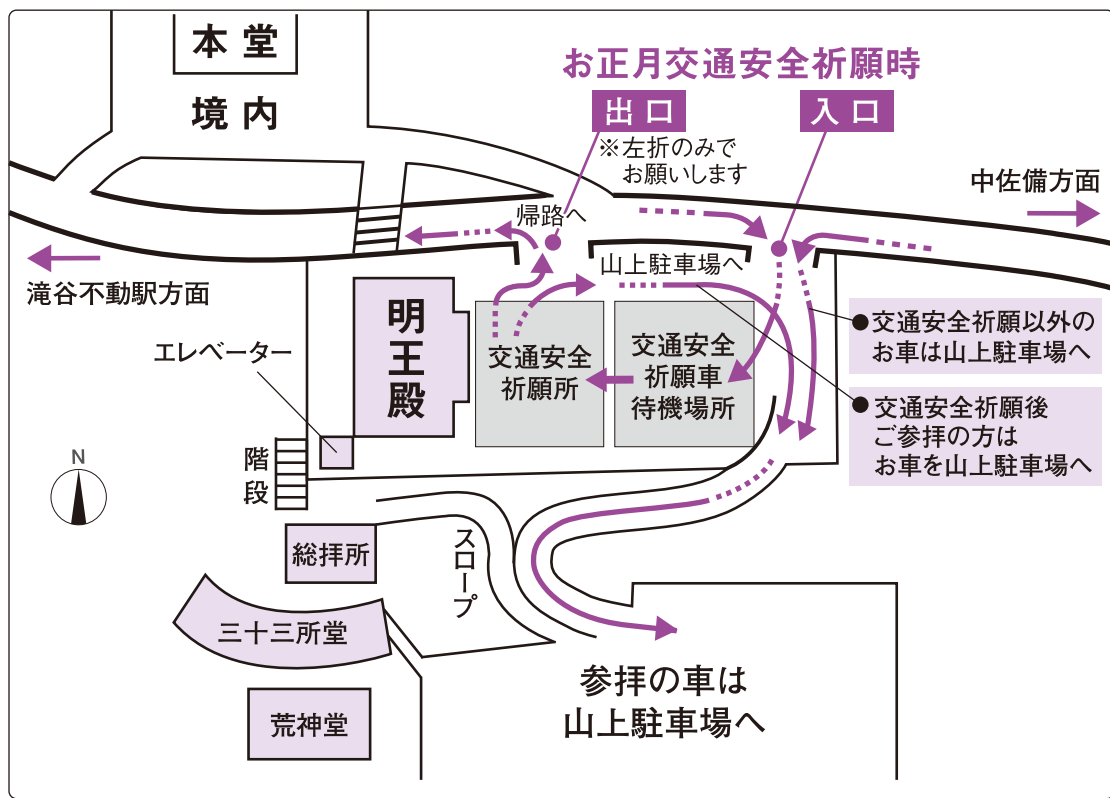
修正会期間中、交通安全祈願所及びお車の移動経路は、下図の通りとなっております。

修正会期間中は交通安全祈願を明王殿で勤めており、明王殿前の第一駐車場は、交通安全祈願のお車専用となります。警備員が誘導しておりますが、お車の侵入・退出・移動の際は、ご注意ください。また、お車の移動経路は、下図の通りとなっております。

尚、交通安全祈願以外のお車は、山上駐車場をご利用くださいますよう、ご案内いたします。



明王殿の様子



総事業費十二億円 客殿棟・寺務棟新築

令和三年
開創一千二百年

記念事業経過報告並ご奉讃お願い

当山は平安時代 弘仁十二年
(西暦八百二十一年)弘法大師の
開基と伝えられ、令和三年は開
創千二百年に正當いたします。

代を迎える当山にとつてまことに
相応しい事業であると考え、こ
の発願をした次第であります。

ご案内しておりますように、昨

この勝縁に際し、令和三年五月に開創二千二百年祝祷法要を奉修する予定であります。またこの法要の記念事業として、客殿棟と寺務棟の新築工事を実施しております。

年末、第二期工事の寺務棟の建設が完了。目下、第二期工事の客殿棟の建設が進んでおります。現在、二階部分の鉄骨の建設が進行しており、全体としては令和二年春の完成を見込んでおります。

この事業は、災害対策に限界のあつた旧來の木造建築を更新する必要から、総事業費十二億圓、九百坪近くの新築工事となります。当山にとりまして乾坤一擲の大事業であります。開創一千二百年という節目に臨み、新たな時

当事業には、かねてより多くの方々からご奉讃を賜り、厚く御礼申し上げます。ご奉賛いただいた方には、別項に掲載の規定によつてご芳名を顕彰し、末永く寺録に留めて祈願いたします。御信徒の皆様におかれましては、

お不動様のご威徳を新たな時代に
伝えていくため、今後ともさらなる
ご支援を賜りたく、謹んでお願い申
上げます。

瀧谷不動明王寺



建設中の客殿棟



完成予想区

記念事業寄進者御待遇表

百万円以上	五十万円以上	三十万円以上	十万円以上	五万円以上	三万円以上	一万円以上
同右	同右	同右	同右	同右	同右	山報に御芳名を掲載いたします。
同右	同右	同右	同右	同右	御芳名簿に記入して客殿仏間に納め、永く家門の繁栄を祈念いたします。	
同右	同右	同右	同右	同右	御芳名を記入した板札を境内の建札台に掲げ、広く顕彰いたします。	
同右	同右	同右	同右	落慶法要にご案内して記念品を進呈いたします。	同右	受付時に記念品を進呈し、落慶時にご案内をいたします。

開創一千二百年記念事業
寄進者御芳名（敬称略・順不同）

河内長野市
東京都

富田林市

富田林市

松原

堺市

河内

広島県

河内長野市

河内

高石市

松原市

南河内郡

泉南市

大阪市

大阪

堺市

千葉県

柏原市

八尾

堺市

羽曳野市

令和元年十月以降に御寄進いただく

いた方の御芳名は、来号以降に掲

載いたします。